

平成28年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、(1)知性の向上、(2)品性の向上、(3)信頼される学校づくりの3つの観点から重点目標を設定し、学校経営に係わる様々な課題に取り組んできた。

(1)知性の向上に関しては、家庭学習習慣を定着させるため課題提出率の向上に努めた。この結果休日5時間以上学習する生徒も多くいるものの、一方では二極化が依然と進み、全体を平均した学習時間は伸びなかった。また、各教科が個別に行う小テストや専門学科における資格取得などは、生徒の学習意欲の向上と関わり、平日においても学習時間を伸ばす傾向にある。進路指導については、進路意識を高め個に応じた進路指導を行うために面接指導を重視するとともに、進路意識を育てることで学習意欲を高める取り組みを推進した。

(2)品性の向上に関しては、「挨拶の励行」「さわやかな制服の着こなし」などが身につけており、「氷高さわやかデイ」「氷高さわやかウイーク」「さわやか運動」などを通して更なる意識の向上を図っている。また、校内から出るゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒総会や全校集会時に保健委員長からゴミ分別の仕方について説明し徹底を呼びかけるなど、意識を高める上で効果が見られた。

(3)信頼される学校づくりに関しては、HIMI学などの学習活動や部活動、ボランティアや学校行事などの教育活動を通して地域との連携を進めた。重点目標に設定した地域の交流活動等への参加者数は、生徒会執行部、学科、学年、部活動を中心に活動し大幅な増加が見られた。また、保護者に対しては、PTA活動への参加促進や情報発信などに努めることで行事への参加者は増えたものの、研修会への参加者は伸び悩んでいる。また、情報活用の面では、マークシートを利用して集計を簡便化することで負担が軽減したため、学校の状況を把握する種々のアンケートが実施し易くなっている。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校では、学科間・学科内で生徒の学力や進路希望の多様化が顕著に見られる。この状況に対して、「わかりやすい授業」「学力を伸ばす授業」を念頭に置いた学習指導や、個々の生徒の希望を実現するために進路指導の充実を図ることがより重要である。特に、普通科では応用力を伴う学力育成、専門学科では基礎学力の定着をめざすとともに、面接指導では進路意識を育て学習意欲に結びつけることが課題となる。また、高校生活を通じて社会で自立できる人間形成となるよう、挨拶の励行やボランティア活動への積極的参加をはじめ、教科活動や部活動、HIMI学などの学習活動を通して、より多くの生徒が社会と係わる学びを体験できる仕組みを工夫し、充実させる必要がある。その上で、家庭や地域などとの連携を大事にして、地域から信頼される魅力的な学校づくりにつなげていくよう努めたい。

平成28年度 氷見高校アクションプラン - 1 -																																				
重点項目	学習活動（生徒の自己学習力と教師の指導力の向上）																																			
重点課題	自主的学習態度の育成と授業の改善																																			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒（H27年度 普通科） <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">9月調査(通常週) (9/1～9/7)</td> <td>平日</td> <td>1年 26%</td> <td>2年 19%</td> <td>3年 62%</td> <td>全学年 35%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>1年 75%</td> <td>2年 57%</td> <td>3年 83%</td> <td>全学年 72%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">11月調査(期末考査直前) (11/23～11/29)</td> <td>平日</td> <td>1年 47%</td> <td>2年 43%</td> <td>3年 64%</td> <td>全学年 51%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>1年 81%</td> <td>2年 80%</td> <td>3年 91%</td> <td>全学年 84%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生で学習習慣の確立に課題が残る。また、定期試験に向けた学習時間も確保できない生徒が多く、二極化の改善が課題である。 対策として、週末課題や小テストによる家庭学習習慣の定着と、互研授業の実施等による授業力の向上に取り組んでいる。 専門学科では、専門教科と共通教科の連携を図り、課題（基礎錬成・予習）の提出、小テストによる学習習慣の定着に努めている。 						9月調査(通常週) (9/1～9/7)	平日	1年 26%	2年 19%	3年 62%	全学年 35%	休日	1年 75%	2年 57%	3年 83%	全学年 72%	11月調査(期末考査直前) (11/23～11/29)	平日	1年 47%	2年 43%	3年 64%	全学年 51%	休日	1年 81%	2年 80%	3年 91%	全学年 84%								
9月調査(通常週) (9/1～9/7)	平日	1年 26%	2年 19%	3年 62%	全学年 35%																															
	休日	1年 75%	2年 57%	3年 83%	全学年 72%																															
11月調査(期末考査直前) (11/23～11/29)	平日	1年 47%	2年 43%	3年 64%	全学年 51%																															
	休日	1年 81%	2年 80%	3年 91%	全学年 84%																															
達成目標	① 平日の家庭学習時間(普通科対象) 2時間以上の生徒が全学年60%以上			② 互研授業の実施 1人3回以上																																
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学年、進路指導部と連携を密にし、進路の時間などを取り入れながら、早期に進路目標を立て、その実現に向けて学習に取り組ませる。 学習計画表をもとに、面接指導等を行い、家庭学習を支援する。 週末課題や小テストを実施し、家庭学習習慣の定着を図り、課題提出率の向上に努めさせる。 			<ul style="list-style-type: none"> 1, 2学期に互研授業期間を設定して相互評価を行い、また、保護者や地域への授業公開を行うことで自己研鑽意欲を高めつつ、学力観の共有と指導法の改善を図る。 シラバスの作成をとおして、評価規準及び指導計画の改善を図る。 正味50分の授業時間確保に向け、時間を遵守する意識を高める。 																																
達 成 度	学習時間 11月・・・ 47%			実施率 50%																																
具体的な取組状況	<p>方策の通り実施した結果、次の通りであった。</p> <p>2時間以上家庭学習した人数(%)について、9月調査(第1週)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>26%</td> <td>19%</td> <td>66%</td> <td>37%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>63%</td> <td>66%</td> <td>80%</td> <td>69%</td> </tr> </table> <p>11月調査(期末考査直前)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>35%</td> <td>42%</td> <td>66%</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>73%</td> <td>83%</td> <td>78%</td> <td>78%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平日3時間以上の生徒は、100人超、また休日5時間以上の生徒は約90人と頑張っている生徒も多くいるが、平日に1時間未満の生徒も約70人程度いるように二極化している状態である。 				1年	2年	3年	全体	平日	26%	19%	66%	37%	休日	63%	66%	80%	69%		1年	2年	3年	全体	平日	35%	42%	66%	47%	休日	73%	83%	78%	78%	<ul style="list-style-type: none"> 1学期 5月25日(水)～6月1日(水) 2学期11月14日(月)～11月18日(金) 1, 2学期とも期間中のすべての授業を公開した。2学期は授業公開週間と位置づけ、保護者と地元中学校関係者にも公開した。教員1名当たりの見学授業数は、平均2.6回であった。若手・中堅教員が相互に触発を受ける感想が多かった。 11月の互研授業期間中の外部の参観者数は低調だったが、5月の保護者参観日には1年生の保護者を中心に200名超の参加を得た。 		
	1年	2年	3年	全体																																
平日	26%	19%	66%	37%																																
休日	63%	66%	80%	69%																																
	1年	2年	3年	全体																																
平日	35%	42%	66%	47%																																
休日	73%	83%	78%	78%																																
評価	C 各学年とも、もう少し家庭学習の時間が欲しい。考査直前にもかかわらず、1・2年生は50%にも届かなかった。			C 見学の回数は少なかったが、教科の枠を超え、積極的に行き行く姿が見られた。																																
学校関係者の意見	行ったアンケートの結果を生徒にもフィードバックすれば良いと思う。今年度の3年生が2年次より学習時間は大幅に増えていることに、先生方の指導の熱意を感じた。																																			
次年度へ向けての課題	次年度以降も継続して取り組むとともに、学習時間の増加を目指して学年との連携をとりながら工夫していきたい。			次年度も継続して取り組むとともに、実施率100%を目指して実施方法の改善を図りたい。また、保護者等の参観者を増やすよう工夫したい。																																

平成28年度 氷見高校アクションプラン - 2 -										
重点項目	学習活動（教科実践力の育成）									
重点課題	日常的な学習意欲の高揚と実践的学習活動の定着									
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力差の拡大や、計画的学習への取り組みの二極化に対して、国語や英語、数学など普通教科では、「小テスト」や「スピードテスト」を実施する場合、年間の学習計画を示して学習意欲を高めていく必要がある。 農業科・水産科・家庭科・商業科など専門教科では、基礎学力の向上と専門内容の定着を図るため、クラブ活動や地域と連携した実践活動や、様々な検定取得、補習や小テストを通して、学習習慣の確立と意欲の向上を目指している。 									
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① 小テストの実施回数(国語科・英語科) 年間20回以上</td> <td>② スピードテストの実施回数(数学科) 年間50回以上</td> </tr> <tr> <td>③ 各種検定1級合格者数(家庭科) 延べ40名以上</td> <td>④ 1人当たり検定合格種目数(農業科) 4種目(1年)、6種目(2年)、7種目(3年)</td> </tr> <tr> <td>⑤ 地域交流活動への参加者数(海洋科学科) 延べ100名以上</td> <td>⑥ 全商検定試験1級合格者数(ビジネス科) 延べ80名以上</td> </tr> </table>	① 小テストの実施回数(国語科・英語科) 年間20回以上	② スピードテストの実施回数(数学科) 年間50回以上	③ 各種検定1級合格者数(家庭科) 延べ40名以上	④ 1人当たり検定合格種目数(農業科) 4種目(1年)、6種目(2年)、7種目(3年)	⑤ 地域交流活動への参加者数(海洋科学科) 延べ100名以上	⑥ 全商検定試験1級合格者数(ビジネス科) 延べ80名以上			
① 小テストの実施回数(国語科・英語科) 年間20回以上	② スピードテストの実施回数(数学科) 年間50回以上									
③ 各種検定1級合格者数(家庭科) 延べ40名以上	④ 1人当たり検定合格種目数(農業科) 4種目(1年)、6種目(2年)、7種目(3年)									
⑤ 地域交流活動への参加者数(海洋科学科) 延べ100名以上	⑥ 全商検定試験1級合格者数(ビジネス科) 延べ80名以上									
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に、生徒に実施計画を示し、目標を持って学習に取り組ませる。 同じ単元を繰り返して取り組ませたり誤りを確認させたりするなど、反復学習の習慣を身に付けさせる。 目標達成のための課題を設定し、学習計画を各自で作成させるなど、学習に対する意識を高めさせる。 年間を通じた計画的な指導により、自主的な学習を促す指導を行う。 									
達 成 度	<table border="1"> <tr> <td>① 国語科：100%、英語科：100%</td> <td>② 数学科：100%</td> </tr> <tr> <td>③ 54名 3種目合格1名、保育4種目3名</td> <td>④ 1年79%、2年87%、3年84%</td> </tr> <tr> <td>⑤ 参加者延べ人数123名</td> <td>⑥ 1級合格延べ人数158名</td> </tr> </table>	① 国語科：100%、英語科：100%	② 数学科：100%	③ 54名 3種目合格1名、保育4種目3名	④ 1年79%、2年87%、3年84%	⑤ 参加者延べ人数123名	⑥ 1級合格延べ人数158名			
① 国語科：100%、英語科：100%	② 数学科：100%									
③ 54名 3種目合格1名、保育4種目3名	④ 1年79%、2年87%、3年84%									
⑤ 参加者延べ人数123名	⑥ 1級合格延べ人数158名									
具体的な取組状況	<p>① 国語科：各学年・学科の状況に応じ、漢字テストや語彙テストを実施した。実施回数は、1年29回、2年27回、3年21回。 英語科：各学年・学科の状況に応じ、単語テストや文法・語法テストを実施した。実施回数は、1年30回、2年27回、3年21回。</p> <p>② 各学年・学科の状況に応じ、スピードテストを実施した。実施回数は、1年55回、2年55回、3年50回。</p> <p>③ 練習計画を各自で作成し自己評価をさせたり、放課後や休日にも丁寧に指導を行ったりしたことで、生徒の意欲向上につながり、高度な知識・技術を習得させることができた。</p> <p>④ 計画的に学習活動に取り組ませたり、放課後にも指導を行ったりして、生徒の学習意識と進路意識の向上につながっている。</p> <p>⑤ 地域社会との交流を主として、販売実習や新商品のコラボ企画、またワカメの育成を通じた海洋環境への興味関心を高め、生徒にとっては進路意識の向上とそれに伴う向学心を養うことができた。</p> <p>⑥ 問題演習を行うだけでなく、関連用語や解説ではポイントを押さえて指導を行った。</p>									
評価	<table border="1"> <tr> <td>① 国語科 A</td> <td>英語科 A</td> <td>② 数学科 A</td> </tr> <tr> <td>③ A</td> <td></td> <td>④ B</td> </tr> <tr> <td>⑤ A</td> <td></td> <td>⑥ A</td> </tr> </table>	① 国語科 A	英語科 A	② 数学科 A	③ A		④ B	⑤ A		⑥ A
① 国語科 A	英語科 A	② 数学科 A								
③ A		④ B								
⑤ A		⑥ A								
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 専門学科特に商業科の検定合格者数は激増しており、大変素晴らしい。生徒の自信や進路実現にもつながり高い教育効果を上げているが、指導者側の負担過重にならないようご配慮いただきたい。小テストやスピードテストについては、回数だけでなく効果的な学力向上の目標を考えた方がよい。地域交流活動については、もっと推進するべきである。 									
次年度へ向けての課題	<p>① 国語科：漢字力・語彙力の必要性を意識させ、継続的な学習姿勢を育成したい。 英語科：小テスト当日だけに学習が偏らないよう、日々の反復学習の重要性を自覚させたい。</p> <p>② 数学科：文理系選択後の効果的な運用を検討したい。</p> <p>③ 資格を取得した生徒の達成感が高く、自信につながり進路実現にも結びつくので、審査方法の変更等の課題もあるが、さらなる合格者数とレベルとの向上を目指す。</p> <p>④ より目標意識を高めるとともに、家庭での学習時間を増やし取得率の向上を目指す。</p> <p>⑤ 進路をより地域に密着させ、進学希望者も含めた水産の地域社会の在り方を産官学で構築し、新しい水産業の構築を目指す。</p> <p>⑥ 指導教員のスキルや指導力の向上のため、怠ることなく研修を続けていきたい。</p>									

平成28年度 氷見高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路支援力の向上）																																											
重点課題	進路意識の高揚と進路目標の早期設定																																											
現 状	<p>・自分の能力・適性を掴みきれないため、また進路に関する知識が少ないため、進路目標の設定が遅れがちになる傾向がある。</p> <p>□第3学年の進路希望状況調査（「その他」は公務員志望含む）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>大学</th> <th>短期大学</th> <th>専門学校</th> <th>就職</th> <th>その他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通科</td> <td>108名</td> <td>11名</td> <td>31名</td> <td>5名</td> <td>3名</td> <td>158名</td> </tr> <tr> <td>農業科学科</td> <td>1名</td> <td>2名</td> <td>5名</td> <td>12名</td> <td>0名</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td>海洋科学科</td> <td>5名</td> <td>3名</td> <td>2名</td> <td>10名</td> <td>0名</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td>ビジネス科</td> <td>8名</td> <td>1名</td> <td>11名</td> <td>20名</td> <td>0名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>生活福祉科</td> <td>2名</td> <td>10名</td> <td>15名</td> <td>13名</td> <td>0名</td> <td>40名</td> </tr> </tbody> </table> <p>本年度の普通科の大学進学希望者の内訳は、国公立大学の志望者が63%である。新課程となり、理数科目が難化傾向にあることや、専門学科も大学で研究していくための学力をつける必要があるが、生徒自らが学力の錬成に十分努めていない。また、就職希望者についても、一般常識テストやSPIテストが入社試験で必須となる傾向にあり、基礎学力の育成が求められている。そこで、全学年で進路意識及び学習意欲を高めて、計画的に受験準備に当たらせるために、「進路学習」と「面接」の充実が必要である。</p>			大学	短期大学	専門学校	就職	その他	計	普通科	108名	11名	31名	5名	3名	158名	農業科学科	1名	2名	5名	12名	0名	20名	海洋科学科	5名	3名	2名	10名	0名	20名	ビジネス科	8名	1名	11名	20名	0名	40名	生活福祉科	2名	10名	15名	13名	0名	40名
	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	計																																						
普通科	108名	11名	31名	5名	3名	158名																																						
農業科学科	1名	2名	5名	12名	0名	20名																																						
海洋科学科	5名	3名	2名	10名	0名	20名																																						
ビジネス科	8名	1名	11名	20名	0名	40名																																						
生活福祉科	2名	10名	15名	13名	0名	40名																																						
達成目標	① 進路学習の実施回数 普通科：各学年学期に2回以上 専門学科：各学年学期に3回以上	② 生徒1人当たり面接回数(年間) 1・2年生は年間4回以上、 3年生は5回以上																																										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間やホームルーム活動でキャリア教育を適宜、実践する。 ・各学年の年間指導計画に基づき、段階的にキャリア学習の機会を設けて進路研究し、自己の適性の理解及び将来設計を具体化させる。 ・進路に関する個人記録を蓄積し、自分の進路経歴を理解し、発展させる。 ・進路資料を整理し、面談で情報を検索、利用して面談の深化を図る。 ・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 1年次・・・「進路講話」「職業人に学ぶ」「文理選択」「卒業生と語る会」他 2年次・・・「大学見学」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他 3年次・・・「進路ガイダンス」「オープンキャンパス参加」「就職説明会」「企業見学」他 																																											
達 成 度	B 3学期実施予定を含め、ほぼ達成	B 実施予定を含め、各平均値ではほぼ達成																																										
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学期あたりの進路について考える機会 1学年 平均2.4回(普2.0、専3.0) 2学年 平均3.7回(普3.7、専3.7) 3学年 平均3.4回(普1.5、専6.0) ・普通科は、主にホームルームの時間で職業や大学、学校調べなどの進路学習を、2学年は大学等見学・修学旅行での進路別研修について多く実施している。専門学科は、HIMI学（1年）、キャリア・デザイン（2年）、キャリアデザイン（3年）の時間でさらに就職も含めた進路指導の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月末までの1人あたりの面接回数 1学年 平均4.4回(昨年比-0.2回) 2学年 平均4.6回(昨年比+1.2回) 3学年 平均5.7回(昨年比+0.3回) 82%のクラス(昨年比20%)で達成された。 ・朝学習、放課後補講、部活動等、時間的な制約がある中、早朝や昼食時等を有効活用して、個別の生徒理解や指導に時間を割いている。 ・家庭学習計画表を提出させ、家庭学習の確認と助言を行っている。 																																										
評価	B 3学年普通科は受験指導が主となり、もっと進路指導に時間をかける必要がある。	B 教員の勤務時間外の負担が多い状態である。																																										
学校関係者の意見	面談はフェイス・トゥ・フェイスが大切である。面接場所や時間の確保が課題である。教員の負担軽減のためにもできるだけ雑務を減らしていく必要がある。																																											
次年度へ向けての課題	進路学習の持ち方が担任や学年任せになっている。とくに3学年普通科は受験指導で忙しく、多様な進路希望を考慮に入れ、資料や指導案を進路指導部から提供して組織だったものにしていくべきである。	アンケート調査の結果、多くの担任は、落ち着いて面接を行う時間と場所が確保できないと訴えている。行事の精選とともに副担任と連携を図るなどして、担任の負担軽減につなげたい。																																										

平成28年度 氷見高校アクションプラン - 4 -		
重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）	
重点課題	品性・自他敬愛の心の育成と基本的生活習慣や衛生管理への意識づけ	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、生徒会やクラス単位で定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶を意識して取り組んでいる生徒が 91%にとどまっている。また、制服のスカートやネクタイ・ズボン等の着こなしがまだ甘く、シューズ踵の踏み潰しにも注意が必要である。高校生のJR等の公共交通機関の乗降時や車内におけるマナーの悪さがよく指摘されるので、マナーアップを図る。 校内の自動販売機や食堂で販売する飲食物から出る業者ゴミと、その他の学校ゴミとの分別が不十分であり、徹底されるように生徒一人ひとりの意識を高めさせたい 	
達成目標	① 生徒の挨拶・服装交通マナーに係る意識率の向上	② ゴミの分別徹底の働きかけ
	95%以上	年間10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の「さわやか運動」、毎月実施するクラス毎の「さわやかデイ」の取り組みにおいて活動場所や時間帯に工夫を加え実施する。 校風委員会及び交通委員会を中心に現状を把握し「挨拶の励行」「交通安全(自転車マナー・乗車マナー)」などの社会的マナーアップに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回のクリーンアップディでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。 毎学期の始めに、保健委員が教室内のゴミの分別をクラス生徒に呼びかける。 全校集会で、生徒保健委員長からゴミの分別について注意を促す。
達成度	生徒意識調査から(挨拶)92%(1%UP) 生徒意識調査から(服装)96%(1%UP) 生徒意識調査から(ルールを守る)97%	8回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> さわやか運動は、本年も市内少年補導員、地元各種団体の協力を得た。(今年度から十二町小学校も参加)また、小中学校から「あいさつに関する標語ポスター」が届けられ、本校からは校風・交通委員長が小中学校へあいさつ運動協力のお礼で花鉢を届けるなど、地域との交流がさらに深まる活動となった。 「高校生マナーUP」の一環で校風委員会では、JRの乗車マナーのポスターを作成して、各クラスに配布した。また、公共施設等の利用についてもマナーUPを呼び掛けた。 交通委員会では、自転車の鍵かけ運動を行い、鍵かけチェックを学期に1回程度実施した。(鍵かけ率は約90%) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒総会と夏休み前の全校集会時に、保健委員長から校内でのゴミの分別の仕方について説明し、徹底を呼びかけた。 学校祭における展示物や模擬店の片付けがスムーズに行われるように、予めゴミの出し方について説明し、分別の徹底を図った。 クリーンアップディ(保健委員による清掃点検)の際に、教室設置のゴミ箱の分別を確認させた。 清掃時に、ゴミ集積場へゴミを出しに来た生徒に、分別を確認させた。
評価	B	B
	校外での挨拶の声が小さく、さわやか運動等では、小中学生の見本となっていない。「服装の着こなし」は少しずつ改善されている。	教室内に設置したゴミ箱内の分別が、まだ完全ではないので、生徒個々の分別に対する意識が徹底されていないようである。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 「さわやか運動」は、近年の活動を通して小・中・高という「点」が、「線」としてつながってきた。また、氷見市の多くの方も携わり「面」になってきたと感じられる。「氷見高校ロード」の取り組みとして生徒会や委員会などの生徒に活動計画や方法を任せてみるのも良いのではないか。 生徒自身がゴミ分別の必要性を認識し、自主的に分別を心がけるように仕向けてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内外において、「さわやか運動」や「氷高さわやかデイ」などの期間だけでなく、年間を通して挨拶やマナーUP向上ができるよう、生徒が自主的に活動できる為の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別の仕方が、校内と家庭とは異なるため、特に、新入生に早く慣れてもらうための呼びかけや工夫が必要である。

平成28年度 氷見高校アクションプラン - 5 -

重点項目	家庭との連携（地域や家庭（PTA）・同窓会との連携強化）	
重点課題	地域や家庭（PTA）・同窓会との結びつきを大切にする取り組みの推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の地域と連携した活動への参加を積極的に進めており、地域交流活動への参加者数は、H23年度309名、H24年度467名、H25年度1,249名、H26年度は、1,498人と年々増加する傾向にあったが、H27年度は、967名（延べ数）と落ち込みが見られた。 体育大会、学校祭には多くの保護者が来校されるようになった。しかし、PTA総会、学年の研修会などのPTA活動への参加者は、まだ少ない状態である「氷高ほっとメール」利用者も1年生では90%を越え、内容の充実が必要となっている。 昨年度に第1回同窓会総会を開催したが、まだまだ、同窓生に開催日などが知られていない。 	
達成目標	① 地域の交流活動等への参加者(年間) 延べ1000名以上	② P T A 活動の情報提供 月 1 回以上
		③ 同窓会総会の参加数 100人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスや生徒玄関の掲示板に活動案内や活動状況、参加者の感想等を掲示し、生徒の参加意識を高める。 生徒会ボランティア推進委員会やJRC部、また専門学科の各クラブ活動にも、積極的な参加を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事を分かりやすい案内状に工夫し、PTAだより「ゆづるは」「氷高ホットメール」の充実を図り、保護者に学校からの情報を発信する。 他の分掌や学年と連携を図り、保護者に学校の教育活動を理解してもらう。 同窓会報の発行やホームページの更新を確実に行う。また、新高校の卒業生の参加の呼びかけのシステムをつくっていく。
達 成 度	① 延べ1789人	② 3ヶ月に1回 ③ 100人
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部、生徒会委員会(ボランティア推進委員会、交通委員会、校風委員会等)や学科(農業クラブ、水産クラブ、ビジネス科、家庭クラブ)、学年、部活動(JRC部、吹奏楽部)を中心に活動した。 <p>生徒会執行部・委員会 856人 部活動 314人 海洋科学科 123人 農業科学科 20人 ビジネス科 30人 家庭クラブ 446人 (1月31日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ゆづるは」は2回、氷高新聞2回、学年たよりは各学年3回適宜に発行されている。 同窓会総会参加へは、新高校学年幹事、各部活動からの呼びかけてもらい総会は100名、懇親会は92名の参加者があった。また、学年幹事は運営にも協力してくれた。 同窓会報5号は2月17日に発行予定である。また、今回からは3月に氷見市全家庭に配布し、たくさんの人に氷見高校、同窓会の活動を伝えたい。
評価	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> 各担当部署の協力のおかげで、目標の人数を超えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会、学校祭には来校者が増加した。 同窓会懇親会の運営には新高校の学年幹事を中心に行うことになった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を通して生徒自身が色々なことに気が付くことが多く、地域貢献にもなっているので全生徒には1回以上は経験してほしいと願っている。また、教員の負担にならないように生徒が運営する自主的な活動に育ってほしい。 10周年に向けてホームページ・会報等を利用して地域の方にも伝えていってほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> さらなる参加者を掘り起こすため、より効果的な広報活動のあり方を追求したい。また、効率的でかつ正確な記録方法も確立したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会の活動を色々な世代の交流の機会にしていきたい。 10周年に向けての準備を始めていきたい。

平成28年度 氷見高校アクションプラン - 6 -

重点項目	情報活用と管理（情報の活用とセキュリティ意識の向上）	
重点課題	第2コンピュータ室利性向上とセキュリティ意識向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 第1コンピュータ室の更新に伴い、PCを第2コンピュータ室に移設したが、有効に利用されていない。 セキュリティ意識の向上とネットワークやサーバの安定運用に向けたウイルスチェックを実施している。 	
達成目標	① 第2コンピュータ室の利用率 昨年度実績より50%UP	② ウイルスチェックの実施回数(年間) 10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> OS:Windows 7により構築されていて使いやすいことを周知する。 中間ディスプレイに映像が転送でき、PCを必要としない授業での活用についても積極的に促す。 	<ul style="list-style-type: none"> サイボウズでの連絡を徹底する。 毎回期間を設け、声掛けを行うことで確実な実施を促すとともに、セキュリティ意識の向上を図る。
達 成 度	目標を大幅に上回る	11回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> HIMI学でのコンピュータ室の利用開始時期が早まる(30%UP)とともに、1年「社会と情報」での利用時数6時間から11時間(83%UP)と増やすことができた。 ビジネス科の簿記科目や生活科学科の「生活産業情報」では、中間ディスプレイを利用し転記作業を投影するなどのPC利用以外でも利用する時間が増えた。(新規利用) 放課後では、生徒会のしおり作成や動画編集なども行われ、部活動で活動が制限されることもなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回のチェック期間でほとんどの先生方がウイルスチェックを行っており、校内ネットワーク内のセキュリティ環境は安定している。 今年度は件名に「請求書」や「画像」などといったウイルスを添付されたメールが多く届く事例もあったが、本校職員ではこのメールによる感染は聞いていない。
評価	B	A
	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな学科での授業や各種活動での利用時数が増え、有効に活用されるきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校職員のセキュリティ意識を向上させることができ、有効だった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 職員のセキュリティ意識向上の取り組みは進められているが、個人情報の流出にも重点を置いた対応も怠ることなく進めてほしい。 独立行政法人情報処理推進機構様などの外部団体からの指導を受けるなど、常に新しい情報を得ていく体制も必要である。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用しているファイルサーバが対応年数を超えており、別のファイルサーバへの接続する対応が必要と考えられる。 ICTを利用した授業のきっかけとなる働きかけを進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットをとおしてウイルスを感染させ、個人情報を流出させようとする昨今のさまざまな事象に対し、ウイルスチェックだけでなく情報提供を積極的に行っていく活動が必要と考える。